

セキュアストレージ - 電子カルテへの適用 -

宮崎一哉*
茗原秀幸**

要旨

企業や官公庁などにおける業務の電子化に伴い、重要な文書の電子化が急速に進行している。近い将来、電子化される文書の中には、数十年といった長期間にわたって保存することが義務付けられるものも含まれることが見込まれる。

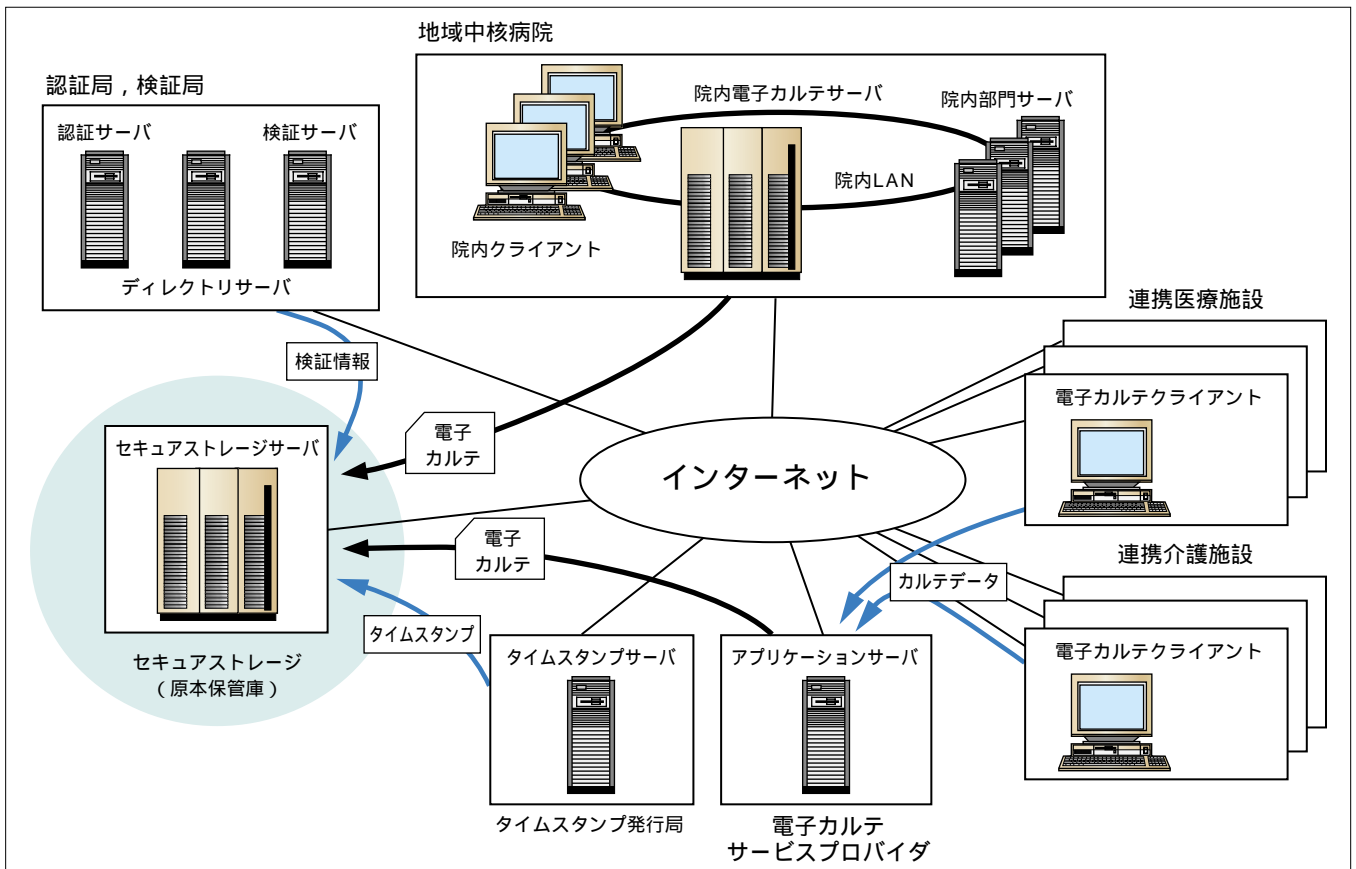
一般に、紙に書かれた文書やマイクロフィルムに記録された文書と異なり、電子化されたデータには改ざん(竄)、漏えいなどの脅威が付きまとうが、こうした脅威に対抗し、原本性を保証することによって電子文書を法的に有効な実効ある文書と位置付けることができ、その結果、真のペーパーレス化が押し進められることになるものと考えられる。

セキュアストレージは、デジタル署名などのPKI(Public Key Infrastructures : 公開かぎ(鍵)基盤)に立脚した情報

セキュリティ技術を利用したものであり、電子文書の原本性を長期間にわたって保証する技術である。標準的なフレームワークを用いており原本性の検証が容易であること、デジタル署名の有効性延長技術を備えており原本性を長期間保持できることなどが特長である。

医療分野でも電子化が推進されており、カルテの電子保存に関する指針も示されている。今回、医療現場に普及しつつある電子カルテシステムに対しセキュアストレージを適用し、その有効性を検討した。

今後、セキュアストレージが、医療分野にとどまらず、多くの分野におけるIT化やペーパーレス化に資するものと考えられる。



セキュアストレージの電子カルテシステムへの適用

地域中核病院の院内クライアント、連携医療施設、連携介護施設の電子カルテクライアントで生成されたカルテデータは、それぞれ、院内電子カルテサーバ及び電子カルテサービスプロバイダを経由して電子カルテの原本がセキュアストレージで保管される。セキュアストレージでは、電子カルテの真正性を保証するために電子証書を発行管理し、また、真正性を長期間保証するために安全なタイムスタンプや認証書の検証情報を収集し、デジタル署名の拡張を行う。